

令和6年度 病害虫発生予察情報

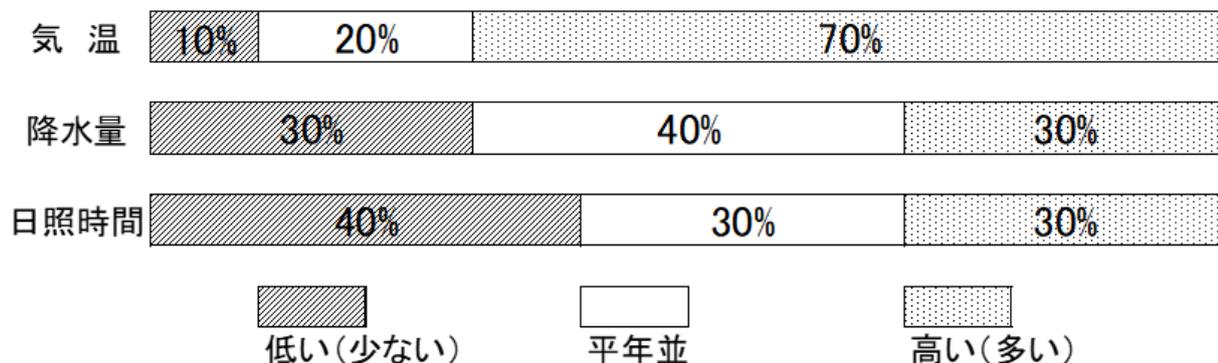
発生予報 第2号（5月）

令和6年4月26日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	平年並
	イネ	ヒメトビウンカ	やや少ない～平年並
		ニカメイチュウ	平年並
		イヌシロムシ	やや多い
果樹	ナシ	黒斑病	平年並
		黒星病	平年並
		シンクイムシ類	やや多い～多い
	カキ	ハマキムシ類	平年並～やや多い
		ハダニ類	やや少ない～平年並
		灰色かび病	平年並
野菜	タマネギ	カキタアザミマ	平年並
		ボトリクス属菌による葉枯れ	多い
		べと病	やや多い～多い
	イチゴ	腐敗病・軟腐病	平年並～やや多い
		灰色かび病	やや多い
		うどんこ病	平年並
		アブラムシ類	多い
		ハダニ類	やや少ない

中国地方1か月予報(4月27日～5月26日・広島地方气象台4月25日発表)
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類 (小さび病、赤さび病)

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ② ムギの生育は平年に比べてやや遅い～平年並みである。
- ③ 5月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 赤かび病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ② ムギの生育は平年に比べてやや遅い～平年並みである。
- ③ 5月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ② ムギの生育は平年に比べてやや遅い～平年並みである。
- ③ 5月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認めていない。
- ② 4月中旬のすくい取り調査(耕起前)では、発生ほ場率は26.1%(平年31.2%)、捕獲数は0.49頭/20回振(平年1.1頭)で発生量はやや少ない。
- ③ 越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は定点調査では0%(平年0.9%)と低い。
- ④ 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(2) ニカメイチュウ(第1世代)

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認めていない。フェロモントラップでの誘殺も4月第5半旬まで認めておらず平年並みである。
- ② 前年の第2世代成虫の予察灯への飛来は1頭(平年13.3頭)とやや少ない。
- ③ 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 前年の新成虫の予察灯による誘殺数は99頭(平年73.7頭)と本年の越冬量は平年に比べてやや多いと考えられる。
- ② 予察灯への飛来は、4月第5半旬までに0頭(平年0頭)と平年並みである。
- ③ 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発生を確認しておらず、発生量は平年並みである。
- ② 5月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発病幼果率 0.2%（平年 0.2%）で平年並みである。
- ② 5月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 やや多い～多い

予報の根拠

- ① 初飛来日は4月8日と平年並み。
- ② 前年の性フェロモントラップでのナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数はやや多く、越冬量はやや多いと考えられる。
- ③ 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① チャハマキ、チャノコカクモンハマキの性フェロモントラップの初誘殺は4月第2半旬と平年並みで、誘殺数は平年並みである。
- ② 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

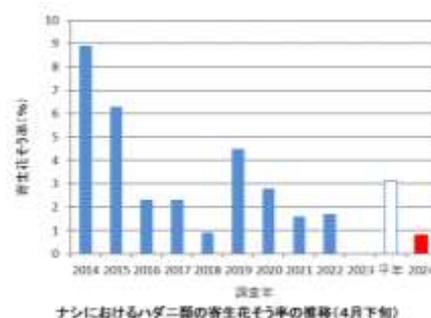
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
- ② 4月下旬の巡回調査（安来市）では寄生花そう率は 0.8%（平年 3.1%）で平年に比べてやや少ない。
- ③ 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。



2) カキ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発病葉率 0.2%（平年 0.4%）と、発生量は平年並みである。
- ② 5月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月第5半旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の初誘殺は認められていない。
- ② 4月下旬の巡回調査では、巻葉被害を認めていない。
- ③ 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 29.6%（平年 7.2%）、発病株率 1.0%（平年 0.1%）と、発生量は平年に比べて多い。
- ② 5月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い～多い

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 44.4%（平成 32.7%）、発病株率 6.0%（平成 3.2%）と、発生量は平年に比べてやや多い。

② 5月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

注）令和 5 年度 病害虫発生予察情報 注意報 第 3 号 参照。

（3）腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 40.7%（平成 46.8%）、発病株率 1.9%（平成 3.1%）と、発生量は平年並みである。

② 5月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

2）イチゴ

（1）灰色かび病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では、発病葉率 0.7%（平成 0.5%）、発病果率 0.4%（平成 0.2%）と、発生量は平年に比べてやや多い。

② 5月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

（2）うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では、発病葉率 0.1%（平成 0.0%）、発病果率 0.1%（平成 0.2%）と、発生量は平年並みである。

② 5月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

（3）アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 多い

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は 57.1%（平成 18.6%）、寄生株率は 14.3%（平成 4.5%）と多い。

② 現在までの黄色水盤への有翅虫の累積飛来量は平年に比べてやや多い。

③ 5月の気象は、本種の発生に抑制する要因にはならない。

（4）ハダニ類（ナミハダニなど）

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は 42.9%（平成 74.5%）、寄生株率は 12.9%（平成 51.6%）と平年並み、寄生小葉率は 9.2%（平成 37.5%）と少ない。

② 発生の多いほ場が一部見られた。

③ 5月の気象は、本種の発生に助長的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病害虫防除所（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp